

現況分析における顕著な変化に
ついての説明書

教 育

平成22年6月

鹿屋体育大学

目 次

1. 体育学部	1
2. 体育学研究科	6

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 鹿屋体育大学

学部・研究科等名 体育学部

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目Ⅱ 教育内容

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名 学生や社会からの要請への対応

平成 18～20 年度の 3 年間、運営交付金の特別教育研究費により、生涯スポーツビジネス分野の産学連携教育プログラムの開発を目的とした SCO-OP (Sporting Co-operative Education) プログラムに取組み、スポーツ専門職の育成には有効なものであることが確認できた。

そのため、中期計画にある養成すべき人材の具体的目標の 1 つである「スポーツ指導力と生涯各段階の運動による健康の維持増進の必要性への理解を持ち、生涯スポーツの振興に積極的に貢献し得る人材」の達成に向け、従前から取り組んでいた学外スポーツ指導実習(2 週間、2 単位)に加えて、平成 21 年度からキャリア形成科目の学外実習科目の 1 つとして 3, 4 年生を対象とした SCO-OP 実習(4 週間、4 単位)を開設した。本実習は生涯スポーツ指導実習修了生等で学業成績の優秀なものを対象とし、平成 21 年度は 2 名の学生が受講した。

これらのことから、この SCO-OP 実習への取組は、本学の教育内容として顕著な変化があったものと判断する。

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 鹿屋体育大学

学部・研究科等名 体育学部

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目Ⅲ 教育方法

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名 主体的な学習を促す取組

平成 18 年度に文部科学省の現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代 GP）に採択された「実践的スポーツ指導者教育プログラム－インターンシップ活動を包括的に支える e-learning プログラム－」に平成 20 年度までの 3 年間取組み、学外実習である生涯スポーツ指導実習における学習教材や過去のインターンシップ状況の提供をはじめ、事前準備から実習後の単位認定までを総合的に支援するための教育プログラム（e-TPI プログラム）を開発した。e-learning の特徴を活かし、自主学習が可能なコンテンツの開発、PC によるインターネットでの自主学習、インターネット未整備地域のための iPod による自主学習などの環境を整備した。

なお、この成果は平成 21 年度の第 6 回日本 e-learning 大賞において、文部科学大臣賞として高く評価された。

これらのことから、本学の教育方法として顕著な変化があったものと判断する。

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育)研究

法人名 鹿屋体育大学

学部・研究科等名 体育学部

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目IV 学業の成果

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名 学生が身に付けた学力や資質・能力

平成 16 年のアテネオリンピックにおいては、本学初のオリンピック選手 1 名を輩出したが、つづく平成 20 年の北京オリンピックにおいても在学学生・卒業生の併せて 4 名のオリンピック選手を輩出したことをはじめとし、ユニバーシアード、アジア選手権などの国際大会への出場、全日本大学選手権等でのメダル獲得を実現した。

これらのことから、本学の特色として掲げる養成すべき人材の具体的目標の 1 つである「国際水準の競技力を持ち、日本代表として国際的に活躍できる人材」を達成するため、多くの学生が履修する専門科目「競技スポーツ論」「競技スポーツ実習」の学習成果として顕著な変化があったものと判断する。

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 鹿屋体育大学

学部・研究科等名 体育学部

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

事例1「新教育課程への移行」

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

平成19年度に教育課程を再編し、従来の「教養科目」を一般科目と学生の職業観・就職観の醸成、体育分野における実践的な専門性の形成、資格取得、就職試験・活動等の支援を目的とするキャリア形成科目として分割し、充実した。平成21年度にさらにキャリア形成科目の学外実習科目として従前の2週間から4週間に長期化したSCO-OP実習を新規開設した。

これらのことから、学外における実習による職業観・就職観の醸成、社会における体育学の実践的な専門性の涵養等のキャリア形成のための科目の質の向上度として顕著な変化があったものと判断する。

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育)研究

法人名 鹿屋体育大学

学部・研究科等名 体育学部

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

事例2「e-learning を活用した自主学習環境の整備」

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

平成 18 年度に文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラムに採択された「実践的スポーツ指導者教育プログラム－インターンシップ活動を包括的に支える e-learning プログラム－」に平成 20 年度までの3年間取組み、生涯スポーツ指導実習における自主学習が可能なコンテンツの開発、PC によるインターネットでの自主学習、特に平成 20 年度はインターネット未整備地域のための iPod による自主学習などの環境を整備した。なお、この成果は平成 21 年度第 6 回日本 e-learning 大賞において、文部科学大臣賞として高く評価された。

これらのことから、本学の教育方法の向上度として顕著な変化があったものと判断する。

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 鹿屋体育大学

学部・研究科等名 体育学研究科

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目Ⅱ 教育内容

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名 学生や社会からの要請への対応

本学大学院においては、具体的教育目標の1つとして「スポーツ・健康づくりにおいて適切に支援できる高度の専門性を有する人材」を掲げているが、生涯スポーツ領域の高度な指導者への社会のニーズが高いことから、特に、社会人のキャリアアップを目指し、平成21年8月に開設された東京サテライトキャンパスにおいて、平成21年度大学院修士課程秋季入学試験を実施し、平成21年10月から修士課程の大学院生を若干名受け入れを開始した。社会人大学院教育のため、インターネットを活用した研究指導やテレビ会議システムによる夜間等の授業、教員が東京に出向いて土・日曜日の集中授業などを実施している。

これらのことから、社会からの要請への対応に向け、本学大学院教育として顕著な変化があったものと判断する。

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 鹿屋体育大学

学部・研究科等名 体育学研究科

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目Ⅲ 教育方法

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名 授業形態の組み合わせと学習指導法の工夫

国際的に活躍できる人材育成のため、平成 21 年度に学外実習を国際的に展開する ISCO-OP(International Sporting Co-operative Education)プログラムのモデル事業に取り組み、韓国とドイツに各一人ずつ派遣し、1ヶ月～2ヶ月の実習を実施した。このモデル事業はグローバル時代における高度専門的指導者育成の実践的な取組であり、受講した大学院生本人、受け入れ機関(ドイツノイス郡市民スポーツ課、韓国ニュースポーツ協会)も今後のスポーツ・マネージャーの育成には非常に有益なインターシップであるとの評価であった。

これらのことから、本学大学院教育として顕著な変化があったものと判断する。

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育)研究

法人名 鹿屋体育大学

学部・研究科等名 体育学研究科

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

事例5 「東京サテライトキャンパスの開設と大学院修士課程の学生受け入れ」

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

生涯スポーツ領域での高度な指導者への社会のニーズに対応するため、平成 21 年 8 月東京にサテライトキャンパスを開設し、同年 10 月から大学院修士学生 3 名を受け入れ、生涯スポーツ領域での社会人のキャリアアップのための教育研究を開始した。

これらのことから、大学院教育の質の向上度として顕著な変化があったものと判断する。